

採用計画「有り」が3年連続増加

— 第31回埼玉県内新規学卒者採用状況調査 —

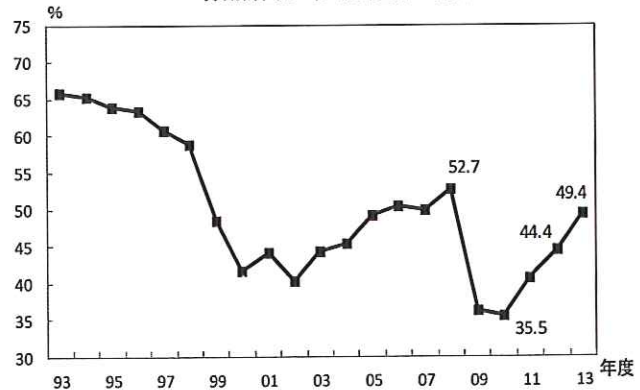
県内企業を対象に4月中旬実施した「埼玉県内新規学卒者採用状況調査」(回答企業数314社、回答率30.6%)の結果は以下のとおりである。

1. 新卒者の採用動向

2013度に新卒者(2013年4月入社)の採用計画が「有った」企業は、前年度(2012年4月調査)比で5.0ポイント増加し49.4%となった。3年連続の増加となり、リーマンショック前の2008年の水準近くまで戻してきた。これまで採用を手控えていた企業も、生産や消費の持ち直しや、景気の先行き回復期待を背景に、新卒者採用を計画する企業が多くなっている。

新卒者の採用計画人数の増減は、前年度より「増加した」が22.9%、「変わらない」が24.3%、「減少した」が17.7%、「例年ない」が35.1%となった。「増加した」企業が「減少した」企業を上回っているが、前年と比べ「増加した」とする企業が1.8ポイント増となる一方で、「減少した」も1.0ポイント増と、わずかながら増えており、新卒者の採用人数については引き続き慎重な姿勢がみられる。

採用計画が「有った」企業の割合



2. 採用実績

計画に対する採用の実績は「ほぼ計画通り」が78.1%(前年度比▲3.0ポイント)、「やや不足」が19.6%(同+2.8ポイント)、「大幅に不足」が2.2%(同+0.1ポイント)となった。前年度と比べ「計画通り」採用とした企業が若干減り、「不足」となったところが増えた。

学歴別・職種別にみた不足状況は(複数回答)、「大卒技術」が最も多く38.8%、以下「専門技術」22.4%、「大卒事務」20.4%、「高卒技術」18.4%となった。例年同様、技術系の不足が目立つが、大卒事務も前回調査比6.5ポイント増と、増加が目立った。

3. 来年度の採用計画

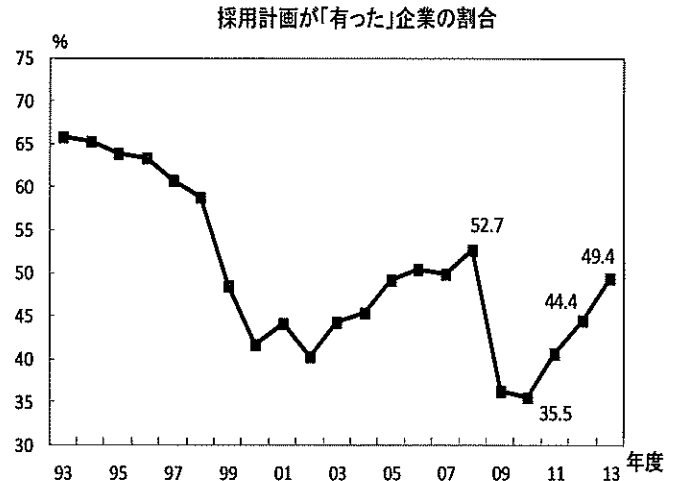
来年度(2014年4月入社)の採用計画は、今年度より「増加」とした企業が16.7%、「変わらない」が35.1%、「減少」が6.0%、「未定」が42.1%となった。「増加」とする企業が「減少」とする企業を上回っており、来年度の新卒者の採用は、今年度より採用に積極的な姿勢がみられる。また、例年同様「未定」とするところが多く、景気回復の期待感が強まっているものの、来年度の新卒者の採用計画については景気の先行きを見極めた上でとすることが多い。

(照会先: 辻、吉嶺)

1. 新卒者の採用動向

(1) 採用計画の有無

2013度に新卒者（2013年4月入社）の採用計画が「有った」企業は、前年度（2012年4月調査）比で5.0ポイント増加し49.4%となった。3年連続の増加となり、リーマンショック前の2008年の水準近くまで戻してきた。これまで採用を手控えていた企業も、生産や消費の持ち直しや、景気の先行き回復期待を背景に、新卒者採用を計画する企業が多くなっている。

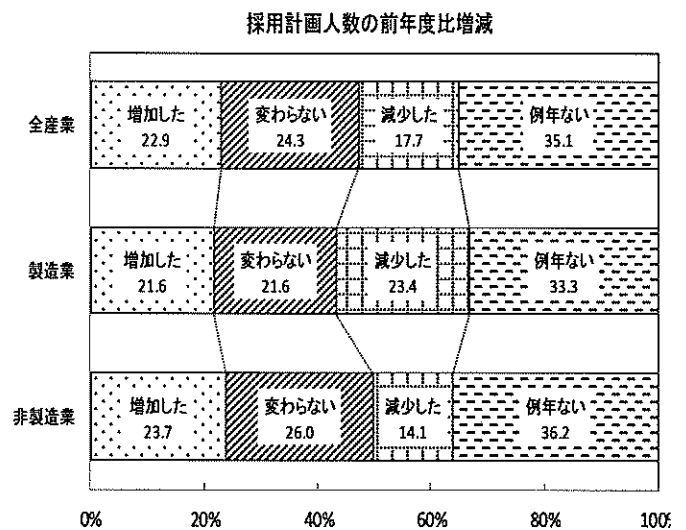


業種別にみると、製造業48.3%（前年度比+0.7ポイント）、非製造業50.0%（同+7.7ポイント）と、いずれも前年調査を上回った。

規模別にみると、大企業は91.3%（同+16.3ポイント）、中小企業は46.0%（同+4.6ポイント）と、大企業で新卒者採用に積極的であった。

(2) 採用計画人数の増減

新卒者の採用計画人数の増減は、前年度より「増加した」が22.9%、「変わらない」が24.3%、「減少した」が17.7%、「例年ない」が35.1%となった。「増加した」企業が「減少した」企業を上回っているが、前年と比べ「増加した」とする企業が1.8ポイント増となる一方で、「減少した」企業も1.0ポイント増とわずかながら増えており、新卒者の採用人数については引き続き慎重な姿勢がみられる。



業種別では、製造業は「増加した」21.6%（同▲0.9ポイント）、「減少した」

23.4%（同+2.8ポイント）、非製造業は「増加した」23.7%（同+3.6ポイント）、「減少した」14.1%（同+0.2ポイント）となった。非製造業では積極的な姿勢がみられるが、製造業は引き続き慎重な姿勢となっている。

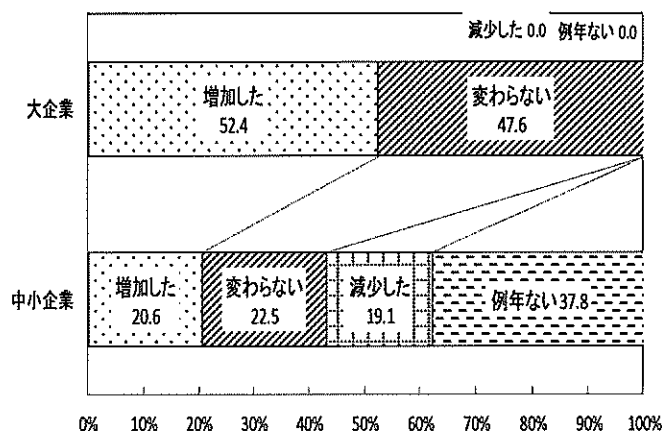
規模別では、大企業は「増加した」52.4%（同+13.3ポイント）、「減少した」0%（同▲4.3ポイント）、中小企業は「増加した」20.6%（同+1.3ポイント）、「減少した」19.1%（同+1.2ポイント）となった。大企業は新卒者の採用に積極的な動きとなっているが、中小企業では引き続き慎重な採用姿勢となった。

男女別では、男性は「増加した」21.3%（同+1.4ポイント）、「減少した」16.7%（同▲0.3%）、女性は「増加した」16.8%（同+2.7ポイント）、「減少した」15.1%（同+0.2%）と、男女ともに採用を「増加した」がわずかながら増えた。

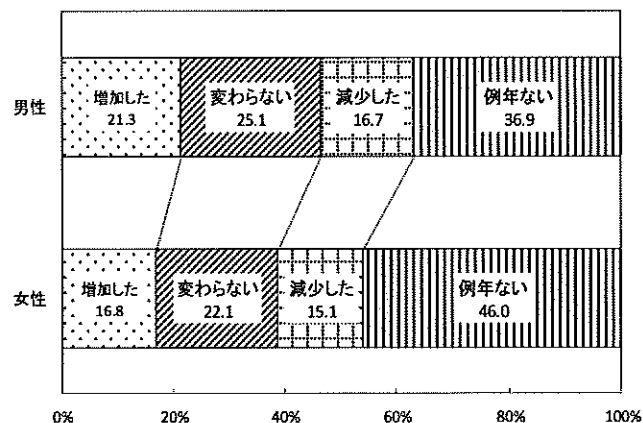
（3）増加の理由

採用計画人数を「増加した」企業がその理由（複数回答）としてあげたのは、「恒常的人手不足の補完」が45.5%で最も多く、以下「良い人材が採用できる」の34.8%、「事業拡大のため」33.3%と続く。前回調査と比べ「事業拡大のため

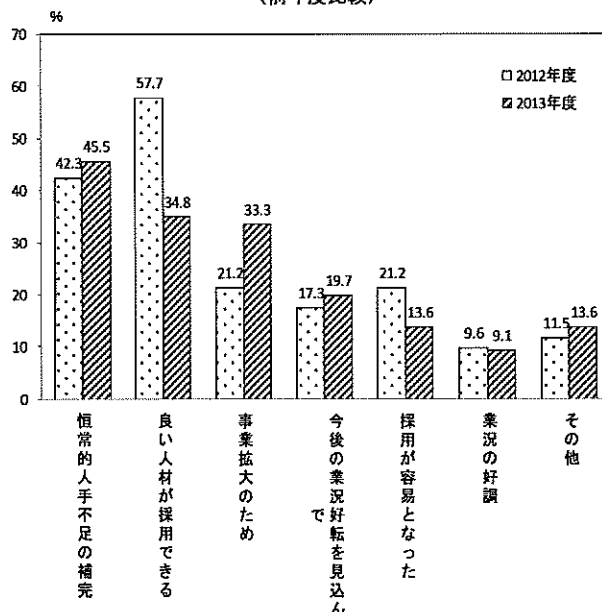
採用計画の前年度比増減
（規模別）



採用計画人数の前年度比増減
（男女別）



採用計画人数を増加した理由
（前年度比較）



め」が12.1ポイント増、「恒常的人手不足の補完」が3.2ポイント増となった。景気回復への期待感が強まる中、事業拡大の計画や、人手不足に対応するため新卒者採用に積極的な姿勢がみられるようになった。一方、ここ数年高かった「良い人材が採用できる」は22.9ポイント減となった。

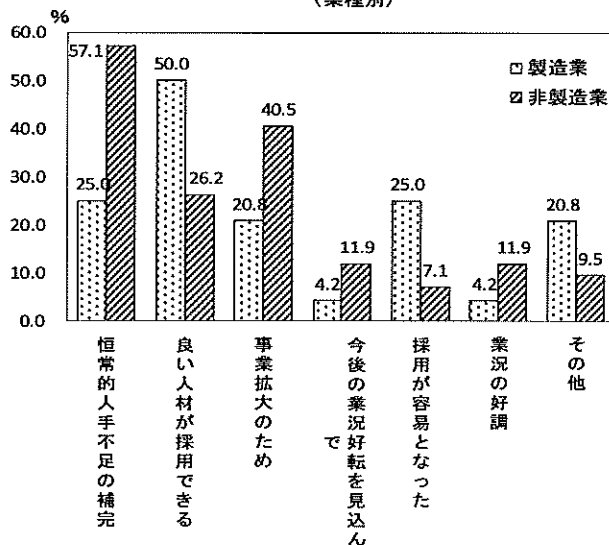
業種別では、製造業が「良い人材が採用できる」が50.0%で最も多く、非製造業は「恒常的人手不足の補完」が57.1%で最も多かった。人手不足感は非製造業で強くなっている。

(4) 減少の理由

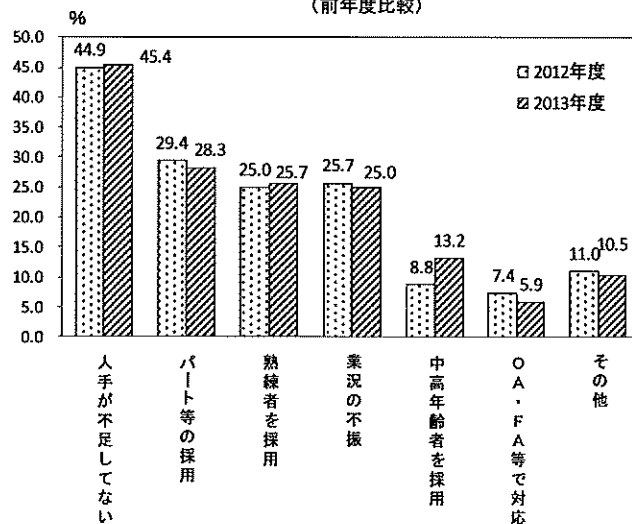
採用計画が「減少または無かった」企業がその理由（複数回答）としてあげたのは、「人手が不足していない」が45.4%で最も多く、次いで「パート等の採用」28.3%「熟練者を採用」25.7%となった。前年と比べ最も増加したのは、「中高年齢者を採用」の4.4ポイント増で、2013年4月1日施行の高年齢者雇用安定法の改正の影響もあるとみられる。

業種別では、製造業、非製造業ともに「人手が不足していない」（それぞれ39.7%、49.4%）が最も多かった。

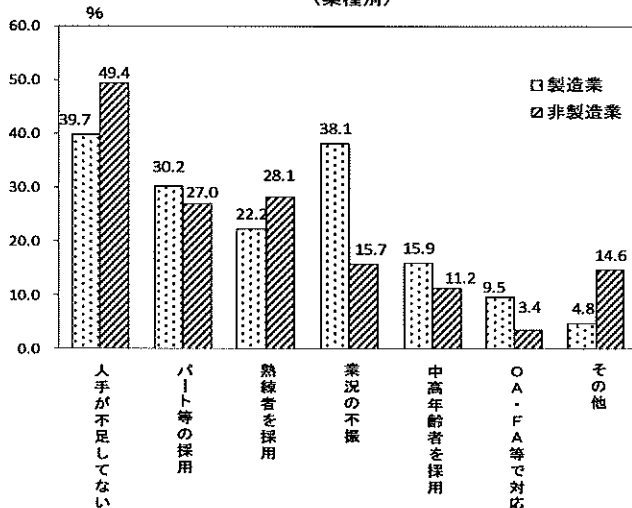
採用計画人数を増加した理由
(業種別)



採用計画が減少または無かった理由
(前年度比較)



採用計画人数を減少した理由
(業種別)



2. 採用実績

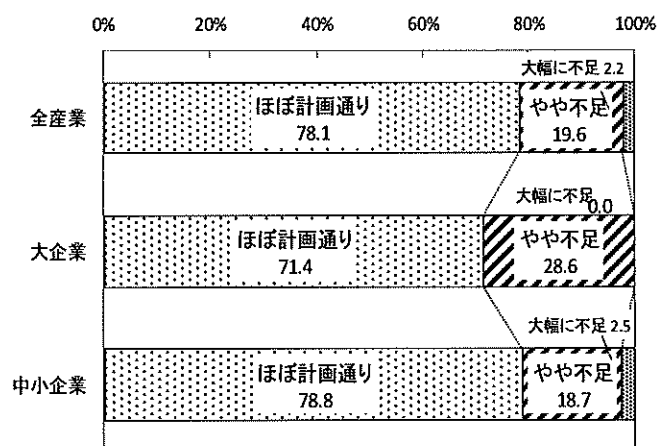
計画に対する採用の実績は「ほぼ計画通り」が78.1%（前年度比▲3.0ポイント）、「やや不足」が19.6%（同+2.8ポイント）、「大幅に不足」が2.2%（同+0.1ポイント）となった。前年度と比べ「計画通り」とした企業が若干減り、「不足」となったところが増えた。

規模別にみると、「ほぼ計画通り」採用できたのは大企業71.4%（同▲9.6ポイント）、中小企業78.8%（同▲2.3ポイント）となり、前年度に比べ大企業、中小企業ともに、計画通りの採用が出来たところが減少した。

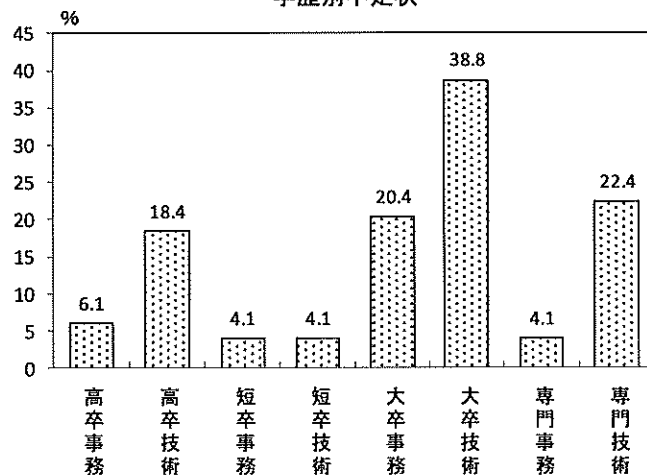
学歴別・職種別にみた不足状況は（複数回答）、「大卒技術」が最も多く38.8%、以下「専門技術」22.4%、「大卒事務」20.4%、「高卒技術」18.4%となった。例年同様、技術系の不足が目立つが、大卒事務も前回調査比6.5ポイント増と、増加が目立った。

採用が計画に満たない分の対応策は、「中途採用」が最も多く61.2%で、以下「パート等の採用」36.7%、「人材派遣会社利用」30.6%となった。「人材派遣会社利用」は前年より11.2ポイント増と大幅に増加した。

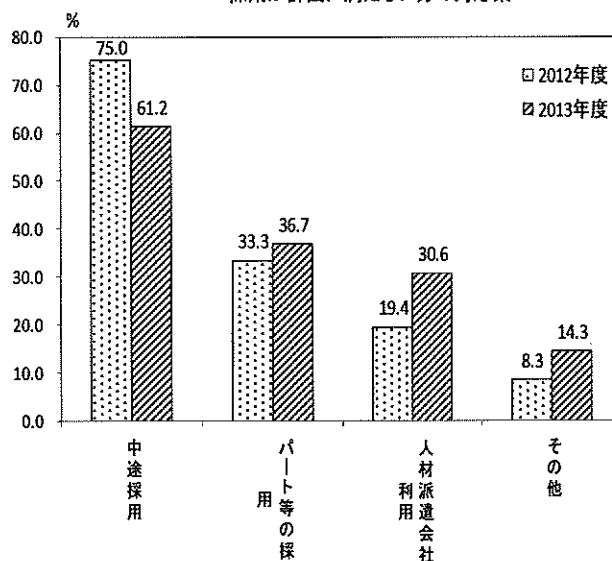
計画に対する採用の実績



学歴別不足状



採用が計画に満たない分の対応策



3. 来年度の採用計画

来年度（2014年4月入社）の採用計画は、今年度より「増加」とした企業が16.7%、「変わらない」が35.1%、「減少」が6.0%、「未定」が42.1%となった。

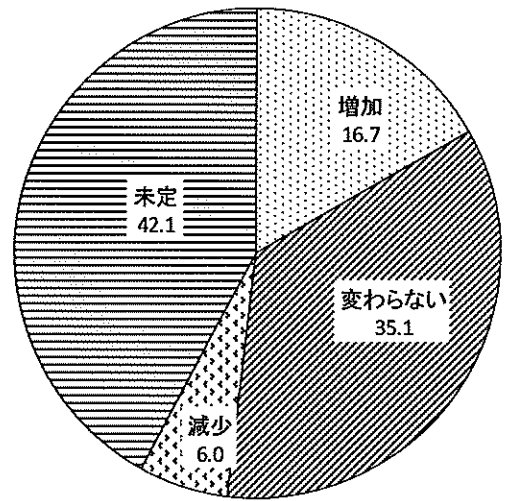
「増加」とする企業が「減少」とする企業を上回っており、来年度の新卒者の採用は、今年度より採用に積極的な姿勢がみられる。また、例年同様「未定」とするところが多く、景気回復の期待感が強まっているものの、来年度の新卒者の採用計画については、景気の先行きを見極めた上でとするところが多いようだ。

業種別でみると、製造業は「増加」8.7%、「変わらない」32.2%、「減少」7.0%、非製造業では「増加」21.7%、「変わらない」37.0%、「減少」5.4%となった。製造業、非製造業とも「増加」とする割合が「減少」を上回っているが、特に非製造業で「増加」とする割合が高い。

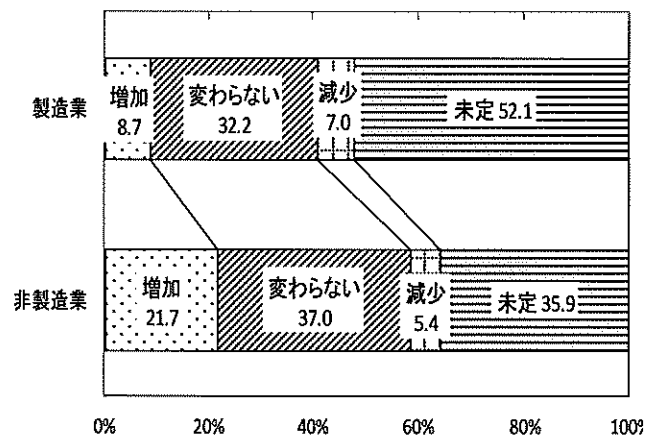
規模別では、大企業が「増加」34.8%、「変わらない」34.8%、「減少」4.3%、中小企業では「増加」15.2%、「変わらない」35.1%、「減少」6.2%となった。中小企業に比べ大企業で「増加」とする割合が高い。

採用計画人数の増減

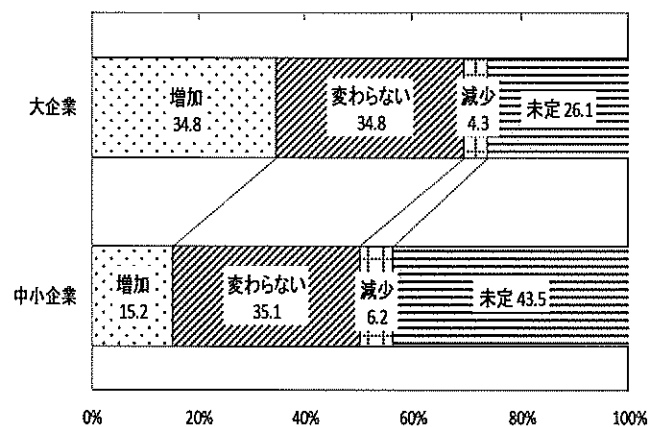
単位：%



来年度の採用計画(業種別)



来年度の採用計画(規模別)



4. インターンシップの活用状況

新規学卒者の採用にあたって、インターンシップ（学生・生徒が在学中に企業で就業体験を行う制度）を活用したことがあるかどうかについて調査した。

それによると、「活用しており、今後も続けるつもり」とする企業は21.6%（前年度比+1.4ポイント）で、5社に1社がインターンシップを活用している。前年度調査との比較では、1.4ポイント増加した。

「活用したことはないが、今後活用してみたい」、「活用してみたいが具体的な手法がわからない」と、インターンシップを現在活用していないが興味を持つ企業は15.7%となった。前年度比では0.2ポイント減と、横ばいであった。

「活用したことはなく、今後も活用するつもりはない」とインターンシップに関心の無い企業も50.0%と半数に及んでいる。

規模別にみると、「活用しており、今後も続けるつもり」が大企業では17.4%、中小企業では21.9%となり、中小企業で活用しているところが大企業を上回った。

業種別では、「活用しており、今後も続けるつもり」が製造業で23.5%、非製造業で20.3%と製造業で活用しているところが非製造業よりやや多かった。

新規学卒者採用に当たってのインターンシップ活用状況

(%)

	全産業	企業規模別		業種別	
		大企業	中小企業	製造業	非製造業
活用しており、今後も続けるつもり	21.6	17.4	21.9	23.5	20.3
活用したことはないが、今後活用してみたい	10.6	8.7	10.8	7.0	13.0
活用してみたいが、具体的な手法がわからない	5.1	8.7	4.8	3.5	6.2
活用したことはあるが、今後活用するつもりはない	9.6	13.0	9.3	13.9	6.8
活用したことはなく、今後活用するつもりはない	50.0	52.2	49.8	49.6	50.3
その他	3.1	-	3.3	2.6	3.4

四捨五入の関係上、必ずしも各項目の合計は100.0%にならない

調査要領

1. 調査の目的

埼玉県内企業における新規学卒者の採用状況、ならびに来年度の採用計画を調査し、地域内企業の経営判断の参考に供し、もって地域経済の発展に寄与することを目的としています。

2. 調査対象企業

県内に事業所を置く企業の中から、概ね従業員10名以上の企業を抽出。産業分類は日本標準産業分類に基づいて製造業15業種、非製造業9業種、計24業種に分類しました。対象企業の業種別内訳は別表のとおりです。

3. 調査方法

アンケート方式

4. 調査時期

平成25年4月中旬

5. 回収状況

アンケートの回答企業は対象企業1,026社のうち314社（回答率30.6%）。回答企業の業種別内訳とそのうち中小企業（中小企業庁方式）の占める比率は別表のとおりです。

別 表

業種別対象・回答企業数

	対象企業数	回答企業数	業種別構成比 (%)	うち中小企業の 占める比率 (%)
全 産 業	1,026	314	100.0	92.7
製 造 業	341	120	38.2	96.7
食 料 品	46	18	5.7	100.0
織 維	12	3	1.0	100.0
化 学	32	10	3.2	90.0
窯 業 ・ 土 石	9	5	1.6	100.0
鉄 鋼	10	2	0.6	100.0
非 鉄 金 属	11	5	1.6	100.0
金 属 製 品	24	9	2.9	100.0
一 般 機 械	34	5	1.6	100.0
電 気 機 械	38	16	5.1	100.0
輸 送 機 械	35	14	4.5	92.9
精 密 機 械	14	5	1.6	80.0
木 材 ・ 木 製 品	10	2	0.6	100.0
パ ル プ ・ 紙	13	5	1.6	100.0
印 刷	25	8	2.5	100.0
そ の 他 製 造	28	13	4.1	92.3
非 製 造 業	685	194	61.8	90.2
卸 売	97	28	8.9	89.3
小 売	98	27	8.6	70.4
建 設	79	33	10.5	97.0
不 動 産	63	19	6.1	100.0
運 輸 ・ 倉 庫	90	22	7.0	100.0
電 気 ・ ガ ス	14	8	2.5	100.0
情 報 通 信	53	9	2.9	100.0
飲 食 店	46	8	2.5	87.5
サ ー ビ ス	145	40	12.7	85.0